

「3・11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.29 2015/11/8

「三陸 星野富広 花の詩画展」の感謝 小山恒平



「三陸 星野富広花の詩画展」を無事に終えることができ、心から感謝しています。準備期間として私たちに与えられた時間はわずか7ヶ月。この7ヶ月の準備期間がいかに短いか、私は当初理解できていませんでした。当初から自分一人で準備を進めるつもりはありませんでしたが、具体的な準備が如何なるものかを理解するのに時間がかかり、他の人にきちんと説明して準備の協力をお願いするところまでたどり着けるのも数ヶ月間を要しました。

具体的な準備を把握し、詩画展の準備に1年間かけるということを理解できた時には、既に開催まで数ヶ月というところまで迫っておりました。告知活動はある程度進んでおりましたが、ボランティア募集やオープニングセレモニーなど準備する事項はたくさん残されておりました。更に開催2ヶ月前の7月初旬の時点では、予算もあと約200万円近く足りないという状況でした。プレッシャーが全くなかったと言ったらうそになりますし、「本当に大丈夫だろうか」という思いはありました。

しかし、この時の心境は不思議に落ち着いていて漠然とですが神様が何とかしてくださるだろうというものでした。これは決して私の強い信仰によるものではないということは断言できません。むしろ、そのような信仰を与えられたというのが正確な言い方だと思います。また多くの方の祈りに支えられていたのだと思います。

そして、まさにすべての必要が満たされていくのを目の当たりにし、その場に立たされたことを神様に感謝しております。たった2ヶ月間で200万円近くの献金が各地から集まりました。最初の見積もりは450万円でしたが、様々な形の経費削減で250万円ほどで済みました。ボランティアも短い期間で100名以上の方が集まり、奉仕して下さいました。

私は、この詩画展を通して神様の働きが未信者にも信者にも明らかにされるようにと祈りつつ準備を進めて参りました。準備をすすめるにあたって個人的に試されたのは、Task-oriented（仕事をこなすことに集中すること）になりがちで、Relation-oriented（人間関係を重視すること）を軽視してしまいがちなことでした。しっかりとした仕事をしてきちんとした詩画展を提供することで証することも大事ですが、慎重な人間

(前ページの続き)

関係構築の大切さも考えさせられました。宣教において未信者との関係づくりももちろん大事ですが、信者同士の間関係や、私たち信者の愛や態度について特に思われました。もちろんこの詩画展を通して、私たちは未信者の方が一人でも救われてくれたらと思いい準備を進めて来ましたが、ただ未信者が変えられてほしいと願う時、私たち信者が変えられるべき点を忘れてしまっていないかと思うのです。

9月28日、群馬の富弘美術館にて作品返却の手続きを終えた翌日、星野富弘さんと再会することができました。その時、星野さんがおっしゃった言葉で印象的だったのは「開催前は果たして僕の作品が被災者の心に届くのか疑問だった」というものでした。その言葉に星野富弘さんの謙虚さと被災者に対する深い思いを感じました

入場者数は7日間の合計で2424名、ボランティアが159名、スタッフが40名でした。来場者も、ボランティアも、スタッフも1日以上の方がいますので、これはすべて延べ人数です。来場者は把握できませんが、参加して下さったボランティアの実質の数は109名、スタッフは11名でした。

このような素晴らしい詩画展に携わることができたのは本当に光栄なことだと思います。このような機会を寛容に与えて下さったことを皆様に、そして神様に感謝致します。

来場者の声

来場者の方々が寄せて下さったたくさんの感想の、ごく一部を紹介します。

家族と一緒に初めて作品展に来ましたがどの作品の絵と言葉も心に響くものばかりでした。富弘さんの「命よりも大切なもの」は一体何だったのか、もっと沢山の作品を見て探していきたいと思います。(20代 女性 一関市)

「生きる」意味を悩んでいた時この展示に出会いました。障害を受け入れられない自分の目標をさがしに来ました。今の自分に向かい合う「希望」をゆっくり一日一日生きる中で見つけられたらと思いました。心の重荷がとれました。苦しい時、ちょっと立ち止まってみます。私は生き続けて良いのですね。震災から月日がたっても苦しきとの戦いかも。今日はありがとうございました。(40代 女性 大船渡市)

冒頭のメッセージに、「被災地沿岸での個展を星野さんご自身が熱望されたことから開催に至った」と拝見し、胸が熱くなりました。早く何かしなければ形にしなければ成長しなければ。と焦っていた気持ちが慰められ涙がでました。花と同じようにいやそれ以上に遥かに人間を愛して完全に造って下さった神様に信頼し、安心して命をつかっていこうと励まされました。ありがとうございました。(20代 女性 山田町)

震災後初めて、自然に涙がでてきました。それまでは素直に泣けなかった様に思います。ありがとうございました。また大船渡での開催を心から楽しみにしています。ありがとうございました。(40代 女性 大船渡市)

私は震災の時、(津波で)夫を亡くしました。今日の富弘さんの絵、詩を見て心がいやされました。本当に有難うございました。同級生に誘われて来て本当によかったです。

(60代 女性 陸前高田市)



さよなら、 グレイスハウス！

大塩梨奈

2012年6月、大船渡市盛町にある家を借りて、スタッフ、ボランティアの人たちと共にこの津波の入った家をリフォームをしました。なんとか住めるようになり、ここが3.11いわて教会ネットワークのベース、グレイスハウスになりました。

それ以降、日本各地、また世界各地の人たちがボランティアとしてここに泊まり、大船渡の人たちに神さまの愛を伝えるため、仕えてくださいました。

はっきりとした数ではないですが、この3年4ヶ月の間、300人以上は泊まったのではないかと思います。本当に多くの方々の心ある支援によってこの場所を拠点に活動することができました。直接、来てくださった方々、また来れなくとも、祈り、献金、物資を捧げるなど様々な形を通して、励まし、支えてくださった方々。みなさんのおかげで、ここまで支援活動を行うことができました。それはまさに大船渡に対する神さまの愛の現れだと感じます。

そして震災から4年半が経ち、スタッフも減り、神さまはグレイスハウスを新しい所へと導かれました。それは被災者の方々が住む仮設です。当然のことながら、以前のグレイスハウスよりはすごく小さいですが、この変化を通して、また支援活動の新しいステージへと導かれているように感じます。大きなチームの受け入れは難しくなりましたが、5人ぐらいは泊まれます。壁は薄く、部屋のドアはちゃんとしたドアでもないのですが、神さまが与えてくださった所を本当に感謝しています。

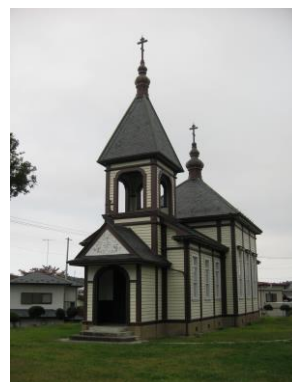
今までのみなさんの働き、ご支援、心から感謝いたします。そして引き続き大船渡のためにもお祈りください。神さまの回復がこの地に与えられて行きますように。

岩手における教会ネットワークの歴史2 若井和生

日本のキリスト教の歴史を学ぶ際、普通、江戸時代のキリシタンの時代の後には、明治の幕開けとともにプロテスタントの宣教が始まったと学びます。ただ岩手においてはプロテスタントよりも早く、ロシア正教会の宣教が活発になされたことがわかります。

函館のニコライ神父の下で最初に回心に導かれた弟子たちが、主に岩手の県南から宮城にかけて積極的に伝道した結果、多くのハリストス正教会が各地に建てられました。アメリカン・バプテ

ストの宣教師ポートが1880年に盛岡で開拓伝道をはじめた際、最初に集まって来た信徒たちはハリストス正教会で回心に導かれた人々でした。一方、水沢を訪ねた宣教師でもあり医者であったプロテスタントのクレッカーが1878年に最初にキリスト教の集会を開いた場所は、水沢領主・留守家の屋敷内でした。これは留守家の留守伊豫子がハリストス正教会の信者だったことに由来しています。岩手においてはハリストス正教会の伝道が、プロテスタント宣教の先鞭をつける役割を果たしていることに気づかされます。神様は長い歴史の中で、様々な教会を用いながら、宣教の働きを推し進めていることがわかります。



宮城県栗原市金成に今も残る金成ハリストス正教会

キルト・キャンプ in 錦秋湖

9月19～20日に、シオン錦秋湖を会場にキルト・キャンプが開かれました。この秋に完成したばかりの新キャンプハウスで開催された最初のキャンプです。宮城、秋田、山形、岩手からキルト好きなお婦人たちが25名が参加。その中に大船渡と陸前高田の仮設住宅、復興住宅にお住まいの方々9名も加えられました。大船渡聖書バプテスト教会を会場に定期的に開かれてきたキルト・サークルの参加者たちです。

水沢聖書バプテスト教会のキルト・チームの指導の下、参加者全員がお花のパターンのミニ・バックを完成させました。キルトと美味しい食事、温泉と楽しい語らい、そして賛美とみことばによって力づけられた素晴らしいひと時でした。



課題のミニ・バッグを完成させて、皆喜びいっぱいです。

釜石で「世の光の集い」が開かれました。

10月18（日）の午後に、釜石で「世の光の集い」が開かれました。岩手放送ラジオで毎朝放送されている福音番組「世の光」の視聴者向けの集会です。今までは県内各地の教会で開催されることの多かったこの集会ですが、今回は釜石のショッピングセンター・イオンタウン釜石のホールでの開催となりました。

キャサリン・ポーター・スタッフによるハープのコンサートの後、講師の関根弘興先生が聖書からメッセージを楽しく、且つ力強く語って下さいました。買い物客も含め50名近くの参加がありました。いっばいっばい岩手のスタッフの皆さんが集いの準備や開催のために多くのご奉仕をして下さり感謝でした。



プログラムの最後に、ハープの伴奏によって、「アメイジング・グレイス」を皆で合唱しました。

7～10月に支援に駆けつけて下さった教会・団体

台湾・東京チーム、久慈教会チーム、合同教会、インパクトチーム、小羊キリスト教会、上田福音自由教会、JEMSチーム、JCFチーム、聖学院大学、常磐高校、鳥取チーム、同盟基督教団ホサナチーム、JECA中部チーム、聖書宣教会、JECA南関東チーム、同盟基督教団チーム、ティラナスホール、玉川聖学院OGチーム、EPJMチーム、青森福音キリスト教会、チャペルこひつじ、OMF、センド、岡山聖契教会チーム、希望の丘チーム、香港牧師ビジョンツアー、ライフレイチーム、OMF花巻チーム、前橋キリスト教会、宮古コミュニティ・チャーチ、盛岡聖書バプテスト教会、盛岡みなみ教会、北上聖書バプテスト教会、水沢聖書バプテスト教会、三陸のぞみキリスト教会
(その他、個人で駆けつけご奉仕下さった方々が多くおられます。)